

第29回しずぎんカップ静岡県ユースU-11 8人制サッカー大会 視察報告

報告者：ユースダイレクター石井知幸

- 目的：4種年代の現状の共有
- 対象者：4種年代を中心とした静岡県育成指導者
- 日時：H26年3月9日（日）16日（日）
- 場所：清水総合運動場他
- 参加チーム数：32チーム

■感想および意見・・・出し手と受け手のよい関係性づくりとパスの質

先月行われた、同じ年代のトレセン大会の印象は、パスを繋ぐ意識はあるが、キック（パス）の技術が少し不安定だった。それゆえ試合を観戦する前までは、ボールが落ち着かない試合が多くなるのかな、と思っていた。

しかし、実際に準々決勝から決勝までの試合を見ると、しっかりとボールをつなぎながら相手陣内まで運ぶプレーや、ドリブル突破、FKなどの個人技など、良い意味で期待を裏切られた。選抜選手のトレセン大会と違って、指導者は、自チームの選手と常に一緒に試合や、練習を行う中で、選手の特徴を把握でき、特徴が生かせるポジションでプレーさせることも理由の一つかもしれない。また、選手間でも、お互いのプレースタイルを理解しているプレー（コンビネーション）も観られた。

そのなかで、いくつかのチームは、きれいなパスワークから相手ゴールに向かってプレーできていた。相手のボールを自陣で奪い、横パスで幅を持たせながら相手からのプレスから逃れ、機を見て縦パス（クサビ）を前線の選手に入れることで、深さ（スペース）と、多くの選手が前向きでプレーできる状態を作り出していた。そして、クサビを受けた選手は、シンプルに視野のある選手に落としのパスをだし、ボールを受けた中盤の選手は、サイドへの供給やスルーパスなど多彩な攻撃を仕掛けていた。

サッカーの試合のなかで、「パスにメッセージを込めて」と言われることがあるが、出し手が受け手に対して、パスの質を意識ながら次のプレーを促すように出し、3人目の選手もそれを感じることで、攻撃の質は向上する。

パス方向の優先順位はあるが、指導者は、意図のあるパス＝ボールを運ぶ順路（戦術）を意識して、選手にプレーすることを促す指導をしたい。